

坂川散策路 整備事業 デザイン ワークショップ

— Report vol. **3**

新しい坂川沿道の将来像を共有し、 参加者同士の意見交換ができました

坂川散策路デザイン検討の第3回目のワークショップが開催されました。第3回となる今回は、前2回のワークショップをもとにエリアマネジメントを考慮した整備デザインの方向性を示したイメージ図を提示し、意見交換をすることを目的としました。藤村龍至氏によるレクチャーの後、市民の皆様と松戸市役所職員が活発な議論を行いました。

日時：2023年12月18日(月)17:30-19:30

会場：アーツスポットまつど

参加者：28名

ゲストファシリテーター

藤村龍至 | ふじむらりゅうじ
建築家 | 東京藝術大学准教授 | RFA主宰



かわまち大賞と石畳について 松戸市河川清流課長 渡辺

はじめに松戸市河川清流課長渡辺より、(1)「坂川とまちづくり市民の会」の活動や河川整備等の取り組みが令和5年度『かわまち大賞』として選定されたこと、(2)前回のワークショップで提案があった旧原田米店の解体に伴う石畳の活用について所有者とのご快諾をいただいたことの報告がありました。今回はこれまでの意見交換でいただいたアイ



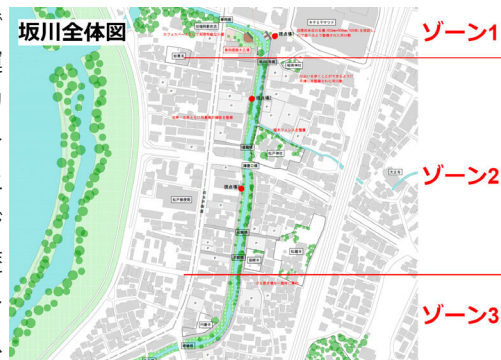
デアをもとに、整備デザイン案のイメージを共有し、次年度の取り組みに向けたまとめを行います。



デザインワークショップの振り返りと今回の提案について 藤村氏

続いて東京藝術大学の藤村龍至氏からこれまでのデザインワークショップ(以下、WS)の振り返りと今回の整備デザインの素案について説明がありました。第1回WSではこれまでの坂川整備の経緯を振り返りつつその課題などを共有しました。まち全体の関係やまちづくりのアイデアについてまとめ、「管理と運営」に課題があることがわかりました。第2回では全国の自治体の事例と共に「管理・運営の4層構造」を紹介し、これを坂川エリアに当てはめた体制案を作成し、議論を展開しました。体制案をもとに新しいエリアの使い方やマネジメントのイメージを膨らませて意見交換をしたところ、「歴史・植物・遊び・川歩き・食事」がキーワードに上がりました。第3回となる今回は、これらのキーワードを念頭に置いて作成した整備のイメージ図を囲んで議論ができればと思います。

今回は坂川エリアを3つのゾーンに分けた整備内容を提案します。春雨橋親水広場周辺は多様な利活用が可能なアクティビティゾーンとします。具体的には、旧原田米店の石畳を河川沿いに配置し、親水広場周辺の機能強化を行います。マネジメント拠点として、カフェスペースとして利用可能な小屋の設置も検討します。河川右岸の河川敷は平滑に再整備して水面のそばで歩けるようにし、対岸の左岸には眺めて楽しめるような水生植物等を配置します。坂川15号橋から不動橋までのエリアは両岸に並木や神社・寺院があり、旧水戸街道との連続性や歴史的な景観をつくるゾーンとします。具体的には、河津ザクラをライトアップする照明を設置したり、防犯性・安全性を向上させるような足元灯を整備します。舗装は石畳風の舗装とし、歴史的な景観に馴染む空間を作ります。坂川の南側には複数のオープンスペースがあり、まちの課題解決に寄与するゾーンとします。



以上の3つの提案をもとに新しい坂川周辺エリアの価値を議論できればと思います。

1. グループワーク

今回のWSは3つのグループに分かれて行いました。藤村氏より提案された坂川の整備イメージ図をもとに各班ごとに意見交換を行いました。

2. 発表



| 1班 |

すばらしい提案／献灯祭りの客席になる対岸側をきれいにしたい／子供が落下しないように柵を作る／飛び石は複数箇所にあって行ったり来たりできるようにしたい。しかし、カヌー教室や避難用船舶が通れなくなる心配がある／桜を眺めるためのベンチが欲しい／桜を支える支柱や鋳物の蓋(樹木マス)は撤去してもよいのではないかと／ゴミ箱は形や色などを統一したい／ゴミ置き場の当番などが困難な問題／市場跡地も忘れずに活用できると良い



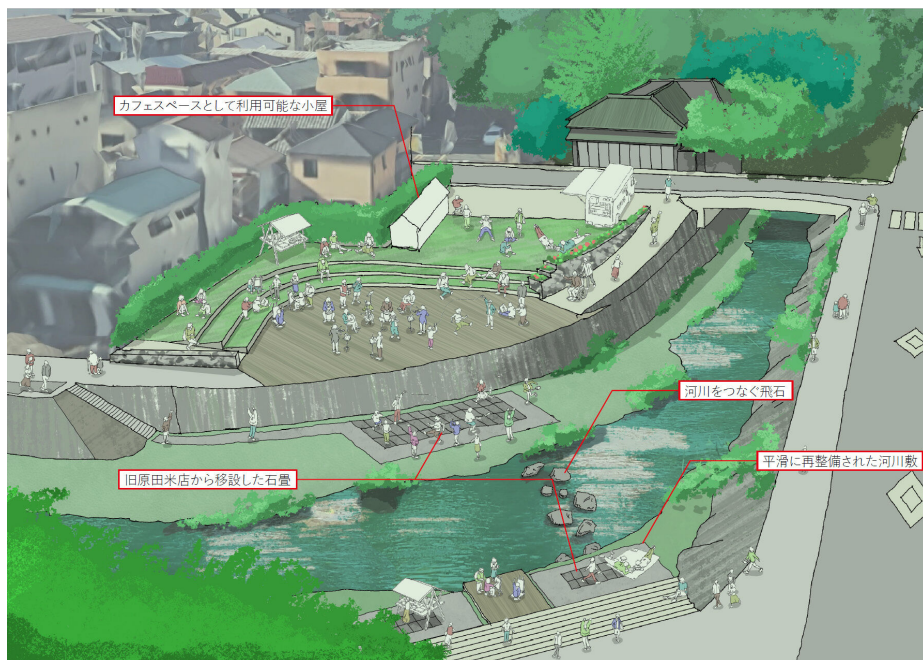
| 2班 |

河川清掃やゴミの整備などの課題解決が大前提／舗装などの整備について方向性はよい／舗装や照明だけでなく樹木と足元の雑草など、河川景観全体として整備したほうが良い／河川敷の植栽は根本を残しながら伐採していたり、石積み固めていないことは生態系を維持する意図があるため、ただ機能的に整備するだけでなくバランスを見ながら決定する必要がある／坂川が連続する中で活用のゾーンのつながりが見えにくい／桜がところどころ途切れているためエリア全体で同じトーンで連続させたい／納得はできるけれど劇的な変化はない



| 3班 |

献灯祭りと飛び石の関係性が気になる／石畳とステージとの位置関係なども考慮する／夏になると日陰がないためパラソルなどを貸し出すなどできるといい／綺麗にするだけでなく、現状の植生を残すことも考えられる／河川敷の幅を広くして溜まったり川と遊ぶゾーンが飛び飛びにあるといい／桜を連続的に眺めたい／よい植栽は自然のまま残すことも良い／水深が浅く子どもが安全に遊べる川は珍しいので大事にしたい／川床を期間限定で作って花見をするなどのアクティビティをつくりたい／ゴミ置き場も風景に馴染むようにしたい／ライトアップは柔らかな電球色の光が良い



視点1 春雨親水広場周辺の整備



視点2 河川敷の整備



視点3 夜間照明・舗装の整備

| まとめ |

渡辺コメント

参考になるご意見をいただきありがとうございます。桜を一連の景観にしたい、ゴミ置き場を風景に馴染むようにし景観の統一を図りたいといった意見が印象に残りました。河川敷に水の浄化作用のために葦を植えたり、微生物を育て生態系に配慮するといった河川整備の当時の考え方を踏襲しつつ整備内容を整理したいと思います。また、石畳風舗装については概ね理解をいただけたと感じております。桜のライトアップについては周辺地域の方に配慮し、足元灯は防犯性の向上に配慮し整備を行いたいと思います。これまでにいただいたご意見を来年度の整備に活かして参ります。

藤村氏コメント

全3回にわたるデザインワークショップにご参加頂きありがとうございました。いただいた意見をもとに計画案をまとめてみなさまにご報告します。